

# 楷

第八十号

岡山大学  
附属図書館報  
OKAYAMA UNIVERSITY  
LIBRARY BULLETIN

KAI  
No.80

2025  
FEBRUARY



<写真>

びゝの木

山中ニ生ス木ノ高サ二間許ニモ  
ナル四時景アリ實櫃子ニ似タリ

「備前国備中国之内領内産物絵図帳」（岡山大学附属図書館所蔵池田家文庫より）

一 目 次

- 図書館におもう（教学担当理事 菅誠治） ..... p.2
- マスカット ..... p.5  
池田家文庫絵図展報告、学生・館長懇談会報告、ほか
- 会議・研修・編集委員から ..... p.12

## 図書館におもう

菅 誠治

私は決して読書好きとは言えない子供でしたが、学校帰りに書店に寄っては、いろいろなジャンルの本を手にとることが楽しみでした。多感なころには『野菊の墓』、『赤毛のアン』などのセンチメンタルな小説や司馬遼太郎の歴史小説が好きでした。少し大人になって現実の世界で揉まれ始めたころには、山崎豊子の『白い巨塔』や『沈まぬ太陽』を読んで、その中で描かれている人間ドラマのドキドキ（ドロドロ）感を楽しみました。読書についての思い出はそんなところですが、学校の図書館というアカデミック空間自体は非常に好きでした。しかし、元来「ながら」勉強を得意としていたので、そこに籠って勉強するという気にはなれず、その「空間」を楽しむために、時々図書館に行って気持ちを新たにするといった使い方をしていたように思います。

大学院生のころには、研究テーマに関連する学術雑誌のコピーをとりに、図書館に籠ることがよくありました。理工系の学生にとっては、ある意味、外界から自らを遮断して（研究室から逃避するためという目的もあった・・・）、学問、学理について集中して考える時間として、とても大事で楽しい時間でした。当時、Institute for Scientific Information (ISI) が提供する Science Citation Index (SCI: 文献間の引用索引) も当然紙媒体でした。自分の研究テーマを深堀りしたり、新しい研究テーマを立ち上げる際には、数日間、朝から晩までこれらのツールを使って図書館で文献集めに勤しみました。当時、情報リテラシーという言葉はまだ一般的ではなく、見様見真似で自ら獲得した方法を使って、ある一つの研究に対する体系化を行うことにより、自分の頭をゆっくり整理していました。現在 SCI は、Web of Science (1997 年に提供開始) に代わり、web 上で簡単かつ迅速に検索ができるようになりました。私の専門分野である化学の世界では、アメリカ化学会の下部組織 Chemical Abstracts Service (CAS) が提供する Chemical Abstracts が SciFinder とよばれるシステムに代わり (1995 年にリリース)、化合物や化学反応とそれに関連する文献情報が一瞬にして検索できるようになりました。電子ジャーナルが一般的になってきたのも、1990 年代後半からだったと思いますので、21 世紀に入り、四半世紀の間に学術情報の在り方そのものが全く別の次元になり、それに伴って学術研究の世界も超絶なスピード感と適確な情報の処理、選別が強く求められる新時代に突入したと思います。最近では、オープンアクセス (OA: 研究成果をインターネット上で、無料で誰でもアクセスできるようにする出版モデル) 化や、研究データの共有・オープン化の議論が急速に湧き上がりつつあります。岡山大学附属図書館ではこのような時代の荒波に対応し、学術研究をしっかりと牽引していくために大変な努力をしていただき、常に高品質な空間とサービスを提供していただいていると思います。池田家文庫の電子データ化も進んでおります。関係諸氏にこの場をお借りして、あらためて敬意を表するとともに、心から御礼を申し上げたいと思います。

先日、岡山大学キャンパス将来構想検討委員会という会議が開催され、その中で「岡山大学キャンパスマスタープラン（津島地区）に関するアンケート」のご紹介がありました。アンケート中に「津島キャンパスのくつろげる場所・集まって過ごす場所について」という設問項目があり、「最もくつろげる場所はどこですか」「お気に入りの場所はありますか」「津島キャンパスのシンボルにつ

いて」という項目で、図書館がいずれも圧倒的な1位でした。やはり、岡大のシンボルは図書館なのです。図書館の時計台は高さ23メートル、東、南、西の3面に設置された時計は大学内から見えるように配慮されたものだそうです。1965年に設置されました。第5代学長の赤木五郎先生の強い「おもい」のもと、当初、けんもほろろだった文部省を説得し、「時計台」ではなく、「防火水槽」として、なんとか承認を受けて着工に漕ぎつけたという逸話が残っています。(岡山大学広報いちよう並木 vol.91 (2019))。また、館の前に植えられ、毎年美しい紅葉を楽しませてくれる楷の木は、館の完工を記念して、畔柳 鎮 先生(名誉教授、当時農学部教授)から贈られたものだそうです。この館報「楷」にもその歴史が何度か登場しております(第一号、第五号、第三十六号、第五十号)。畔柳先生達が種子から育てた苗木2本が植えられ、東側の一本が現存しているとのこと(西側の1本は枯れて再植樹されたもの)。東側の木は1963年4月に発芽した苗だそうで、小職と同年ですか・・・と思うとさらに感慨深いものがあります。楷の木は、孔子の墓所「孔林」に弟子がこの木を植えたことから、学問の聖木として親しまれてきました。閑谷学校の楷の木は非常に有名ですね。

「かい」を漢字変換しても、「楷」という漢字はなかなかでてきませんが、「楷書」と打つとすぐにでてきます。「楷」は手本、規範などの意味をもち、「楷書」は、一点一画を省略しないできちんと書いたものという意味になります。楷の木は、直角に枝分かれすること、また、小葉がきれいに揃っていることから、楷書にちなんで名付けられたとも言われているようです。岡大の卒業生がお世話になっている会社の方に、本学卒の社員の気風をお尋ねすると、真面目で実直で、しっかりとした学問的素養を持つ人が多い、という評価をいただきます。楷の木にちなんだ楷書的な岡大生イメージと重なります。2025年の入学生から、高等学校の新学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」の視点で学習した高校生が入学することから、本学でも「Target2025」と銘打ち、新たなカリキュラムを設置します。チームで協力して課題に取り組む新科目「知の探研」や他学部の教員から学問観・考え方を学ぶ「交流科目」の設置、生涯にわたって英語の自己学習ができる土台を培うための英語教育の強化、などがその目玉になります。この教育改革により、従来から評価されている岡大生の真面目で素直な気風に加えて、自ら進んで新たな価値創造に邁進する力強さを醸成できれば、世界の革新に貢献できる「主体的に変容し続ける先駆者」へと若い力を誘うことができるのではないかと期待しています。これに図書館という学びの場もきっと一役買うことでしょう。

「おもう」には思う、想う、念う、惟うなど様々な漢字が使われています。中でも、「思う」と「想う」が、現代人が思い浮かべるもっとも一般的な「おもう」ではないでしょうか。「思」という漢字の「田」の部分は人の脳みそをあらわし、それに心が合わさることで「思」になるそうです。すなわち、「思う」とは脳と心が合わさって、自分で考えるという意味になるそうです。これに対して、「想」という漢字は「木」を対象として「目」で見る、それに「心」が合わさることによって、対象にむかって心で考えるという行為を表すのだそうです。毎日新聞校閲センターが運営するウェブサイトに面白い記事がありました。「なぜ新聞は「想う」を使わないか」という記事です<sup>1</sup>。読者の投稿欄で「想う」という字を、タイトルを含めてこの読者は使いたかったそうですが、新聞社の担当者から、「想う」は「おもう」と読ませられない、使うにはルビが必要になる、見出しにルビは付けられない、と断られたというものです。また、そもそも、「おもう」に「想う」の字を当てることが一般的になったのは、それほど昔からではなく、近代以降の文学作品から盛んに使われるようになったことなどが書かれています。司馬遼太郎先生も、「おもう」は大和ことばであり、これを漢字で書くのはおかしい。それで平仮名にひらいているんですよ、とおっしゃっておられるそうです<sup>2</sup>。

この記事の最後には、『「想う」をお使いになりたいときは「おもう」と書かれてはいかがでしょうか。平仮名でもお伝えになりたい気持ちは十分伝わると思考します。』と記されています。本稿を「図書館におもう」としたのは学びの場である大学において、図書館はいつも崇高な英知の集積体であってほしいとの「おもい」からです。

先に図書館と電子データ化について触れましたが、最後に生成 AI を使った実習をひとつ記してみます。2022 年に ChatGPT が公開され、最近では DeepSeek が話題になっています。私自身、生成 AI はまだ全く使いこなせていませんが、今回のこの寄稿を機に試しに少し使ってみました。以下、ChatGPT に投げたプロンプトです。

『「図書館におもう」というタイトルで、エッセイを書きたいです。厳粛で静寂な雰囲気 of 図書館の姿を維持しつつ、主体的で対話的な学びの場としての機能や電子情報化を牽引する機能など、知の拠点としての在り様も含めて、300 字くらいでエッセイを作ってくださいませんか?』

ChatGPT は、以下のような文章を作ってくれました。

『図書館に足を踏み入ると、厳粛な静寂が広がり、書棚に並ぶ本が知の重みを伝える。静けさの中、ページをめくる音が響き、思索にふける人々の姿がある。この空間は、知を求める者にとっての聖域であり続けてきた。

しかし、図書館は単なる書物の保管庫ではない。近年、読書会やディスカッションが行われ、主体的で対話的な学びの場としての役割も担うようになった。ここでは、知識が個から個へと伝わり、新たな視点が生まれる。

また、電子書籍やデータベースの充実により、図書館は世界の知を結ぶ拠点ともなっている。静寂の中で深まる思索、対話による知の創造、そしてデジタル技術による情報の拡張。そのすべてを内包する図書館は、これからも知の灯を照らし続けるだろう。』

ChatGPT は、私の「おもい」の詰まった素敵な文章を作ってくれました。学問の府である大学にとって、「digitalization」に対応するだけでなく、寄り添い、手を携えながら協調・協働し、共育・共創を進めていくべきだと思います。図書館はそのための中核組織として、いつも我々の中にあり、岡大の「おもい」の中心であり続けると思っています。

(すが・せいじ 教学担当理事)

- 1) なぜ新聞は「想う」を使わないか

<https://salon.mainichi-kotoba.jp/archives/487> (参照 2025-02-27)

- 2) 「燃えよ剣」の「おもう」「思う」「想う」の揺れに思う

<https://salon.mainichi-kotoba.jp/archives/190724> (参照 2025-02-27)

# マスカット

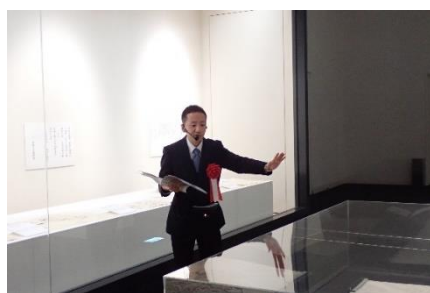
## 池田家文庫絵図展報告

2024年11月9日（土）～2024年12月8日（日）に岡山シティミュージアム 5F 展示室を会場に池田家文庫絵図展「江戸時代のはじまりと池田家」を開催しました。

初日には開会式および企画・監修の本学東野将伸社会文化科学学域 准教授によるオープニングトークを実施しました。また、11月23日（土）には岡山大学学術研究院教育学域 村井良介教授による記念講演「中世の終わりー中国地方の戦国時代ー」を開催し、79名の方々にご参加いただきました。中世や近世といった時代区分や、戦国大名の定義など、参加者のみなさまは興味深く聴講されておりました。

会期中の来場者は、延べ1,573人となりました。

来年度以降の池田家文庫絵図展もどうぞよろしくお願いいたします。



## 学生・館長懇談会報告

中央図書館では、2025年2月17日（月）に、文学部、経済学部、工学部の学生計4名の参加を得て、学生・館長懇談会を開催しました。この懇談会は、よりよいサービスの提供を目指して、学生から図書館利用についての意見や要望を直接お聞きするために実施するものです。この度の懇談会では学生から、資料の利用・施設の利用・利用者のマナーなどについてさまざまな意見や要望をいただきました。附属図書館では、これら学生からの貴重な意見をもとに、サービス改善に取り組んでいきます。

## 「池田家文庫子ども向け岡山後楽園発見ワークショップ」実施報告

2025年2月24日（月・振替休日）に岡山後楽園にて附属図書館と教育学部の共催で「池田家文庫子ども向け岡山後楽園発見ワークショップ」を開催し、30名（小学生16名、同行者14名）の方にご参加いただきました。

参加者は、教育学部学生による紙芝居で後楽園の歴史を勉強した後、附属図書館所蔵の巨大絵図（複製）のうえを歩いたり、グループに分かれて縮小絵図（複製）を手に、自分たちで決めたルートで園内を回ったりして、絵図に描かれた昔の後楽園と現在の後楽園の違いを発見しました。最後にグループごとにそれぞれの発見を発表し、みんなで共有しました。



## 2024 年度岡山大学公開講座実施報告

「池田家文庫「信長公記」の時代とデジタル化された古文書の世界」

日時：2024 年 11 月 14 日（木）13：00～16：30

場所：岡山大学創立五十周年記念館 金光ホール

内容：

基調講演「信長公記」の時代と池田氏 小和田 哲男氏（静岡大学名誉教授）

講演 地域資料としての池田家文庫 小野田 伸氏（前岡山シティミュージアム館長）

講演 古文書のデジタル化・データ公開とその活用

東野 将伸氏（岡山大学学術研究院社会文化科学学域准教授）

参加者：140 名

小和田先生からは「信長公記」についての様々な知識や、太田牛一筆の「池田家文庫本」と「建勲神社本」との違い、池田家文庫本の中に記載されている部分についての解説など、興味深いお話を語っていただきました。小野田先生からは池田家文庫の史料から見る岡山市の歴史や、絵図の変遷、岡山市の現在の地図と重ねてみた時の楽しみ方などをお話いただきました。東野先生からは古文書の保全の意義と、デジタル化することで活用が容易になり、また市民が理解やアクセスしやすい状況を整備することで保全や活用の両面が活性化されるというお話をいただきました。

当日、会場内ロビーでは池田家文庫や信長記の概要、池田家文庫のデジタル化の進捗についてのパネル展示をおこなったほか、信長記のレプリカを展示しました。

当日は 140 名もの方にご参加いただき、「日本人として日本の歴史の勉強は欠かせないことだと思います。」「話もわかりやすく、時代背景などを考え合わせることができて、とても良かったです。」「デジタル化の意義を知った、池田家文庫についてもっと知りたいと思った」「内容は非常に興味深く満足のいくものでした。」などの声をいただき、盛会のうちに終了しました。



## 知好楽セミナー報告

「知好楽セミナー」とは、グローバル化時代を生き抜くための「知」と「心」を育む交流をコンセプトとした中央図書館の独自企画です。各界から多彩な講師をお招きし、ご好評をいただいています。

・第32回「土田杏村と同時代の文化人たち～西田幾多郎から萩原朔太郎まで～」

日時：2024年10月30日（水）14:00～15:30

講師：鈴木亮三氏（岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科 客員研究員）

場所：中央図書館 本館 1F 日本総研プラザ（ラーニングコモンズ）、Zoomによるオンライン配信

参加者：会場10名、オンライン配信22名

土田杏村とは誰かというところから始まり、杏村文庫資料に残された献辞や書き込みを基に、同時代の文化人たちと杏村の交流関係についてお話いただきました。

また、セミナー終了後は、杏村文庫の現物と講師の鈴木先生による解説パネルを展示している本館2階クスノキエリアで、会場参加の方向けにキュレータートークを行っていただきました。

参加者の方からは「杏村への評価がわかりやすくまとめられており勉強になった」、「全く知らない哲学であったが、とてもおもしろかった」などの感想をいただきました。



・第33回「癌を起こす細菌の話—ピロリ菌除菌のすすめ—」

日時：2024年12月13日（金）14:30～16:00

講師：横田憲治氏（岡山大学学術研究院保健学域 教授）

場所：中央図書館 本館 1F 日本総研プラザ（ラーニングコモンズ）

参加者：19名

そもそも細菌とは何かというところから始まり、ピロリ菌はいつ見つかったのか、なぜピロリ菌によって癌が引き起こされるのか、具体的なピロリ菌の検査・除菌治療についてお話いただきました。

また、講演後の質疑応答では「実際に検査や除菌をすると費用はどのくらいかかるのか」、「1回の除菌で良いのか」など活発に質問が飛び交っていました。

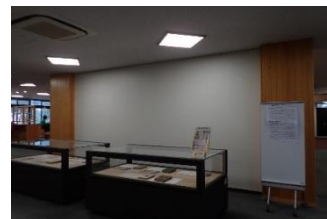
参加者の方からは「ピロリ菌の様々な面を知ることができ、非常に興味深い話だった」、「ピロリ菌の検査をやってみたいと思った」などの感想をいただきました。



## 図書館館内展示報告

### ○中央図書館

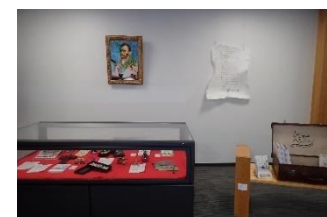
- ・ 杏村文庫資料展示（第32回知好楽セミナー関連展示）  
展示期間：2024年10月28日（月）～11月29日（金）  
展示場所：本館2F ムラタアカデミア（クスノキエリア）



- ・ 文学部学芸員課程企画展「す展」  
文学部学芸員課程の実習生たちが「捨てられないもの」という統一テーマのもと、ケースごとに企画テーマを設定しました。  
企画1「捨てりゃーええのにす展」  
企画2「捨て方がわからないモノたち  
～お住まいの自治体での処分方法～」  
展示期間：2024年12月5日（木）～12月17日（火）  
展示場所：本館2F ムラタアカデミア（クスノキエリア）



- ・ 旅する手紙展@岡大×兵教大  
展示期間：2025年1月6日（月）～2月18日（火）  
展示場所：本館2F ムラタアカデミア（クスノキエリア）
  - 連動展示1「書状でみる天下人と池田家のひとびと」  
展示場所：本館2F ムラタアカデミア（イチョウエリア）
  - 連動展示2「てがみのほん」  
展示場所：本館2F ムラタアカデミア（らせん階段展示棚）
  - 連動展示3「みんなでつくる手紙アート」  
展示場所：本館2F ムラタアカデミア（イチョウエリア）
  - 関連イベント「おてがみ体験」（会場：本館2F ムラタアカデミア（ヒノキエリア））  
日時：2025年1月16日（木）11:00～11:30、1月22日（水）14:30～15:00  
参加者：17名（16日：5名、22日：12名）



- ・ 中央図書館ミニ展示報告  
10-11月 土田杏村と知の巨人たち（第32回知好楽セミナー関連展示）  
12月 癌を起こす細菌の話（第33回知好楽セミナー関連展示）  
1-2月 防災について学ぼう

### ○鹿田分館

- ・ 「癌を起こす細菌の話 ～ピロリ菌除菌のすすめ～」  
12月13日（金）に開催した同タイトルの知好楽セミナー連携展示。セミナーの講師である横田分館長の協力を得て、セミナー内容を紹介。同時にピロリ菌に関する書籍や、横田分館長が発表した関連論文も展示しました。  
展示期間：2024年11月20日（水）～2025年1月10日（金）  
展示場所：2階ロビー





・「倉敷中央病院ってどんな病院？（2024 年度版）」

昨年度に続き、今年度も実施した倉敷中央病院との連携展示。岡山県の民間大病院である倉敷中央病院について岡大生に紹介。2024 年度版は小児科外来やスタッフルームを飾る絵画（柚木沙弥郎氏の描いたもの）の紹介や、ドイツのゲッチンゲン大学から購入したコレクション、ゲッチンゲン医学古典文庫の紹介など、「倉中」（倉敷中央病院の愛称）の特色によりフォーカスしました。

展示期間：2025 年 1 月 17 日（金）～

展示場所：2 階ロビー



## ○植物研分館

2024 年 11 月 11 日（月）～11 月 22 日（金）に、植物研分館は貴重資料等の展示「大原農研誕生 そして岡大移管へ」を、史料館 1F で実施しました。資源植物科学研究所は大原孫三郎氏によって大正 3 年（1914）に設立され、2024 年に 110 周年を迎えました。今回の展示では、その創立から岡山大学移管に至るまでの期間について、当館に残る事務資料を中心にご紹介しました。



## ブックハンティング実施報告

ブックハンティングは学生が図書館の蔵書に相応しいと思う本や、多くの学生の利用が期待できる本を選ぶイベントです。

今年度の植物研分館のブックハンティングは、店頭選定、オンライン選定の両方を開催しました。2024 年 11 月 6 日（水）の喜久屋書店倉敷店でのブックハンティングには、学生 3 名の方にご参加いただき、選んでいただいた 42 冊のうち、所蔵済みの本などを除いた 35 冊の本を購入しました。また、11 月～12 月のオンラインでのブックハンティングには、2 名（学生 1 名、教員 1 名）の方にご参加いただき、選んでいただいた 9 冊のうち、所蔵済みの本などを除いた 7 冊の本を購入しました。

## 株式会社第一エンタープライズより附属図書館へ寄付をいただきました

2024 年 11 月 3 日に、株式会社第一エンタープライズ・形山舜止郎代表取締役より本学附属図書館へ寄付がありました。

同社からは 2020 年 4 月にも、新型コロナウイルス感染症対応の支援のため岡山大学学都基金を通じ、岡山大学病院に寄付をいただきました。

この度の寄付は、本学の学生のため附属図書館の資料や環境整備に資するため贈られたもので、学習資料の整備を中心に貴重資料電子化や附属図書館の施設設備の整備に使用し、学生の修学環境のさらなる充実を図ります。

**(予告)「電子化スタジオでんでん」が始動します**

中央図書館本館1階入館ゲート正面に、研究データ作成・公開を支援するため、スキャナやデジタルカメラ等を設置し研究者自身による電子化が可能な施設を開設します。その名も「電子化スタジオでんでん」！附属図書館で研究DXに向けて電子化をどんどん進めていただきたい、という思いを込めて名付けました。

「電子化スタジオでんでん」には、令和6年7月に本学が採択された文部科学省「オープンアクセス加速化事業」により、以下の機器を整備しました。本学に所属する教職員および大学院生等は、事前に機器と日時を指定し予約することでご利用いただけます。

- ① 高解像度の資料撮影ができるデジタルカメラ
- ② 和綴じ本等の繊細な資料を撮影できる上向きブックスキャナー
- ③ マイクロフィルムのデジタル撮影が可能なマイクロフィルムスキャナー
- ④ 学会発表用の大判ポスターを印刷できる大型プリンター (A0判厚ロコート紙のみ、有料)

利用開始は2025年3月下旬を予定しています。開始日時については附属図書館ウェブサイトでご案内いたします。

なお、開設から当面の間は試行期間とし、利用状況やご要望等を元に、よりよい運用のあり方を検討して令和7年度中に本運用への移行を目指します。研究成果の発信に、ぜひご活用ください。

試行期間中の「電子化スタジオでんでん」利用方法

- ・ 利用目的：調査・研究のため
- ・ 利用対象：岡山大学所属の教職員および大学院生、指導教員の許可を得た学部学生
- ・ 撮影可能資料：著作権ほか他者の権利侵害のおそれがないもの（各自の責任でご確認ください）
- ・ 利用可能日時：中央図書館の平日開館日 9時～16時45分
- ・ 利用方法：利用希望日の前平日17時までにウェブフォーム（準備中）から機器利用申請
  - ※ 利用許可メール受信後に利用が可能になります。
  - ※ 利用目的等によってはご利用いただけない場合があります。
- ・ 利用料金：①～③ 試行期間中は無料、④ 有料（試行期間中は公費のみ、料金検討中）

**オリエンテーション・データベース講習会実施報告****○中央図書館**

中央図書館では2024年10月～11月にオリエンテーションやラリー、ガイダンスを開催し、延べ46名の方にご参加いただきました。

2024年12月にはオンラインデータベース講習会を開催しました。リアルタイムでは延べ28名の方にご参加いただきました。開催後には岡山大学Moodleを介して記録動画を公開し、2025年2月13日までにオンデマンド配信で延べ74名の方にご覧いただきました。

オリエンテーション、ラリー

| 実施日          | 対象   | 参加人数 |
|--------------|------|------|
| 10月9日～10月10日 | 新入生  | 4    |
| 11月5日        | 新入生等 | 28   |

## ガイダンス

| 実施日   | 講習会名                          | 参加人数 |
|-------|-------------------------------|------|
| 10月7日 | 文献検索ガイダンス                     | 1    |
| 10月8日 | 文献検索ガイダンス<br>(教員の依頼により授業にて実施) | 13   |

## 講習会

| 実施日    | データベース             | 参加人数 | 視聴者数* |
|--------|--------------------|------|-------|
| 12月4日  | eol                | 6    | 22    |
| 12月4日  | LEX/DB インターネット     | 4    | 25    |
| 12月11日 | JapanKnowledge Lib | 5    | 12    |
| 12月11日 | CAS SciFinder      | 13   | 15    |

\*2025年2月13日までのオンデマンド配信の視聴者数

## ○鹿田分館

鹿田分館では2024年11月にオリエンテーション等を開催し、延べ8名の方にご参加いただきました。

## 講習会

| 実施日    | 講習会名        | 参加人数 |
|--------|-------------|------|
| 11月6日  | 効率的な文献入手講習会 | 5    |
| 11月20日 | 系統的文献検索講習会  | 3    |

## ○植物研分館

植物研分館では2024年10月にオリエンテーションを開催し、5名の方にご参加いただきました。

## オリエンテーション

| 実施日   | 対象             | 参加人数 |
|-------|----------------|------|
| 10月1日 | 環境生命自然科学研究科新入生 | 5    |

## 教員からの寄贈図書リスト

次の方から著書をご寄贈いただきました。ありがとうございました。

## &lt;中央図書館&gt;

石橋一昂 [学術研究院教育学域 (数学教育)]

GeoGebra の教科書：数学を体感できる ICT ツール——東洋館出版社，2024.8 (375.41/G 35)

徳永誓子 [学術研究院社会文化科学学域 (文)]

寺院・地域社会と山伏 (論集修験道の歴史 2) ——岩田書院，2024.7 (188.592/R 66)

## &lt;植物研分館&gt;

谷明生 [資源植物科学研究所]

Lanthanides in enzymology and microbiology (Foundations and frontiers in enzymology)

——Academic Press, an imprint of Elsevier, c2025 (157/1268)

## 会議

### ◆学外

- |            |                                         |            |                                                  |
|------------|-----------------------------------------|------------|--------------------------------------------------|
| 2024.11.15 | 令和6年度国立大学図書館協会中国四国地区<br>協会実務者会議（於：鳥取大学） | 2024.12.6  | 令和6年度中国四国地区国立大学図書系・学<br>術情報系人事担当課長会議（於：鳥取大学）     |
| 2024.12.6  | 令和6年度中国四国地区国立大学図書館所管<br>部課長会議（於：鳥取大学）   | 2024.12.16 | 令和6年度国立大学図書館協会中国四国地区<br>協会助成事業講演会（岡山大学、ハイブリッド会議） |

### ◆学内

- |                     |                                                                     |           |                               |
|---------------------|---------------------------------------------------------------------|-----------|-------------------------------|
| 2024.11.28<br>～12.3 | 令和6年度第2回岡山大学出版会編集委員会<br>（メール会議）                                     | 2025.2.28 | 令和6年度第2回附属図書館運営委員会<br>（Web会議） |
| 2024.11.28          | 令和6年度第2回附属図書館電子ジャーナル<br>等経費検討委員会・電子ジャーナル等選定<br>ワーキンググループ合同会議（Web会議） |           |                               |

## 研修

- |                                                           |                                               |
|-----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|
| ・第65回中国四国地区大学図書館研究集会<br>参加者 水内 勇太（10.25）                  | ・第26回図書館総合展2024<br>参加者 石丸 綾華、植山 廣紀（11.5～11.7） |
| ・コーネル大学視察<br>参加者 甲賀 研一郎、大園 隼彦<br>粕谷 美紀、石丸 綾華（12.14～12.20） |                                               |

## 編集委員から

「岡山大学学術成果リポジトリ」をご存じでしょうか。本学構成員による研究成果や論文等をインターネット上で無償公開しており、2025年2月現在、約47,000件のコンテンツが登録されています。近年のオープンアクセス推進の潮流に伴い、機関リポジトリは今後ますます活躍していくことでしょう。

本学構成員の皆様は、リポジトリ内の申請フォームより、ご自身の研究成果の登録を簡単にお申込みいただけます。ぜひご活用ください。（A.I.）

---

岡山大学附属図書館報「楷」 No. 80 2025年2月28日

編集 広報ワーキング

岡山大学附属図書館発行

〒700-8530 岡山市北区津島中三丁目1-1

ホームページ URL <https://www.lib.okayama-u.ac.jp>

